

学校長通信 No.6

平成 26 年度 1 学期終業式 式辞

* 皆さん、あつと言う間の 1 学期でしたね。何が一番印象に残っているでしょうか。入学式と新入生歓迎会、部活での大会、校外学習、クラスマッチ。もちろん、皆さんそれぞれだと思いますが、なかには「あんまりパツとしたことなかったな。」と思っている人もいますかね。私は、日根野高校という全く新しい環境に身を置いて、すべてのことが新鮮で興味深く、一日一日のすべてが、あんまりパツとしない一日も含めて全部が楽しかったです。でも、これってかなり幸せなことだと思っています。なぜかと言いますと、毎日毎日クラスマッチや文化祭をやっているわけではありませんし、どちらかという地味でこれといって特別でない日の方が圧倒的に多くて、でもそんな普通の日になんかできたか何を考えたかが、私たちの人格形成や学力形成の基礎になっているような気がするからです。これを難しい言葉では「薫習」といいます。香りがしみ込むように少しずつ身についていく、というような意味です。要するに体育祭や文化祭や期末考査という特別な日にがんばる、ということも大切ですが、それに向けて「考える・準備する・力を合わせる」という一日一日の過程のほうがもっと重要で、私たちの本当の勉強になっているのは、むしろこっちの方ではないかと思います。これは夏休みでも同じことです。きっと皆さんそれぞれ普段できないような特別なことを計画していると思いますが、これを成功させるために或いは楽しむために、ごく普通の一日をおろそかにせずコツコツと勉強やスポーツや文化活動の時間を積み上げ、人間としての地力をつけていってください。

* 40 年前の夏のことを思い出しました。皆さんと同じ高校生だった頃のことです。高 1 ~ 2 の夏休みはほぼ部活をしていました。高 3 は必死に勉強しました。が、気分転換も兼ねて志望大学の下見に一人で東京へ行きました。当時はオープンキャンパスなんていう企画はなくて、警備のおっちゃんの目を気にしながら在学生のふりして夏休み中の大学キャンパスにドキドキしながら潜入しました。その夜、新大久保という街にある若者向けの安くて安全な宿泊施設に泊ったのですが、その時、生まれて初めて異文化体験をしました。なんと私以外の宿泊客はすべて外国人だったのです。4 人の相部屋だったのですが、私とインド人、イギリス人、台湾人という組み合わせでした。英語でしか会話が通じないし、今

まで嗅いだ事のないような香りがするし、みんな普通に水風呂に入るしで、私はパニック状態。部屋を抜け出しても、宿中にはどこにも日本人はいなくて外国人ばかり。少し前に、仕事で4年ほど外国にいたことがあります。それよりもずっと強烈な異文化パンチを、あの時たった一晩で浴びたように思います。つまり東京での異文化体験も、きっと高校生という未熟でそれでいて感性と可能性に満ちた時代だったからこそその貴重な体験だったんだろうなあと思っています。みなさんもこの夏休み、思い出に残る体験をしてください。

* 最後になりますが、休み中も生活のリズムを崩さない。ルールを守る。そして勉強する。これはしっかり計画通りやってください。お話しましたように、高校時代の体験の輝きにはいろんな形がありますが、勉強することが欠けてしまったのでは輝きの力が失せてしまいます。「なんやかんや言うて、最後はやっぱり勉強かい。」というわけではありません。なんやかんや言う前に勉強です。それこそ、皆さんの夏休みの貴重な体験がパッと輝きます。そう考えてください。それでは夏休み明け、ひと回り大きくなった皆さんに会えるのを楽しみにしています。がんばろう日根高生。